

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画関連事業実施状況

資料2-3

【参考】 滋賀県障害者文化芸術活動推進計画の3つの基本的な方向（柱）と主な取組

No	R4年度事業名	区分 新規 継続 廃止	R4年度事業の概要 ※できる限り簡潔に記入	R4年度 当初 予算額 (千円)	関連する 基本的な方向性 (柱) ◎：1つ必須 ○：任意で2つまで			R2年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R3年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R4年度取組状況 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R5年度取組予定 ※目標となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	担当 所属	担当 者/ 電話 番号 ※本庁 は内線	
					親し む	つな ぐ・ 支え る	活 かす							
1	びわ湖ホール舞 台芸術体験事業 (「ホールの子」事業)	継続	子どもたちが舞台芸術に直接触れる機会を提供することにより、舞台芸術への関心を高め、芸術を感じる心や創造性を育むことを目指し、県内小学生等をびわ湖ホールに招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を実施する。	38,170	◎			新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	令和3年5月25日～6月1日に開催し、103校から7,153名の児童・生徒に参加いただいた。(うち、特別支援学校6校、195名)	令和4年6月1日～6月8日に開催し、142校から9,853名の児童・生徒に参加いただいた。(うち、特別支援学校8校、385名)	令和5年6月1日～6月9日に開催予定であり、181校から11,500名の児童・生徒が参加予定。(うち、特別支援学校9校、437名)	文化芸術振興課	宮嶋 /3345	
2	観覧料の減免等	継続	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。	—	◎		障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(775名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(661名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。(616名 R5年2月時点)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。	酒井 /4670	文化財保護課		
		継続		—			障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(3,203名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(3,046名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。(3,984名 R5年2月時点)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。			環境政策課	三浦 /3350
		継続		—			障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(1,108名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(1,121名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。(1,268名 R5年2月時点)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。			モノづくり振興課	宮本 /3793
		継続		—			休館中	令和3年6月27日のリニューアルオープン以来、障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行った。(1,484名)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。(1,585名 R5年2月時点)	障害者や重度障害者の介助者に対して観覧料の減免等を行う。			県立美術館	近藤 /543-2111
3	文化施設管理運営費	継続	県民が文化芸術活動を行う地域の文化拠点となる文化産業交流会館における事業の実施および施設の管理運営等の業務を指定管理者が行う。	319,002	◎		新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月以降、多くの公演が中止または延期となったが、年度後半には当初の計画どおり、自主制作公演をはじめ次世代への古典芸能継承事業、県民との共同企画事業等を実施した。(自主事業 21事業、56公演)	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、自主制作公演をはじめ次世代への古典芸能継承事業、県民との共同企画事業等を実施した。(自主事業 32事業、67公演)	質が高く親しみやすい古典芸能の自主制作公演のほか、次世代への古典芸能継承事業、県民との共同企画事業等を実施している。	質が高く親しみやすい古典芸能の自主制作公演のほか、次世代への古典芸能継承事業、県民との共同企画事業等を実施する。	文化芸術振興課	村田 /3340		
4	「文化芸術×共生社会プロジェクト」事業	廃止	障害の有無にかかわらず誰もが一緒に楽しむことのできる文化芸術活動事業や、活動を支える人材育成研修等を実施する。	—	◎	○	○	市町、文化団体、福祉団体等で構成する「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会を設置し、モデル事業を実施した。(10事業、参加者約5,500名)	市町、文化団体、福祉団体等で構成する「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会を設置し、「文化芸術×共生社会フェスティバル」を実施した。(11プログラムと関連企画、参加者9,835名)	—	—	文化芸術振興課	梅村 /3345	
5	世界にひとつの宝物づくり事業(つちっこプログラム)	継続	地域の陶芸家やボランティア、学校などと協働し、子どもや障害者に地場産業である信楽の「土」という素材を用いてものをつくることの喜びや感動、本物の芸術を体験できる教育プログラムを提供する。	3,000	◎			子どもや障害者等を対象に、陶芸の森での来園制作や小学校等での制作体験活動を実施した。 <実施件数>196件 <参加者数>8,825名	子どもや障害者等を対象に陶芸の森での来園制作や小学校等での制作体験活動を実施した。 <実施件数>226件 <参加者数>12,029名	子どもや障害者等を対象に陶芸の森での来園制作・見学や小学校等での制作体験活動を実施している。 <実施件数>224件 <参加者数>11,641名 ※R5年2月末時点	子どもや障害者等を対象に陶芸の森での来園制作・見学や小学校等での制作体験活動を実施していく予定。また隣地に移転してきた信楽窯業技術試験場との連携企画も計画しているところ。	モノづくり振興課	宮本 /3793	

No	R4年度事業名	区分 新規 継続 廃止	R4年度事業の概要 ※できる限り簡潔に記入	R4年度 当初 予算額 (千円)	関連する 基本的な方向性 (柱) ◎：1つ必須 ○：任意で2つまで			R2年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R3年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R4年度取組状況 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R5年度取組予定 ※目標となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	担当 所属	担当 者/ 電話 番号 ※本庁 は内線
					親しむ	つなぐ・ 支える	活かす						
6	滋賀県次世代文化芸術センター運営助成事業	継続	文化施設・芸術家と学校等を結び、学校の授業で文化芸術体験を行うためのコーディネーターや、それをサポートする文化ボランティアの育成等を行う「滋賀次世代文化芸術センター」に対して助成する。	9,800	◎		学校連携授業は17校、3,903名に対して実施した。また、文化ボランティアの登録者数は28名、教育研修はコロナ禍の影響により中止となった。事業規模は縮小したが、コロナ禍においても継続して学校へ体験プログラムを提供できた。	学校連携授業は26校、4,678名に対して実施した。また、文化ボランティアの登録者数は18名。教育関係者向けには美術館研修会を実施した。コロナ禍においてもオンライン授業や教材の工夫により、継続して学校へ体験プログラムを提供できた。	学校連携授業は24校、4,616名に対して実施した。(R5年2月末時点)また、文化ボランティアの登録者数は18名。教育関係者向けには美術館研修会を実施した。コロナ禍においても教材の工夫により、継続して学校へ体験プログラムを提供している。	文化施設や芸術家等と連携し、県内の小・中・高等学校等の授業の中で、文化芸術連携授業を実施する。また、企画・運営を担うコーディネーターおよび文化ボランティアを育成する。	文化芸術振興課	木村/3344	
7	美ココロ・パートナーシップ事業	継続	滋賀次世代文化芸術センターにおいて、通常学級に通えない障害者や子どもたちを対象に文化芸術体験プログラムを実施するとともに、若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する。	2,038	◎		適応指導教室や特別支援学校等、16校・施設の215名の児童生徒等に芸術体験の機会を提供した。また、感染症対策に万全を期すため、「美ココロ・パートナー」の新規の受け入れは中止し、経験豊富やパートナーにて事業を実施した。	適応指導教室や特別支援学校等、27校・施設の245名の児童生徒等に芸術体験の機会を提供した。また、感染症対策に万全を期すため、「美ココロ・パートナー」の新規の受け入れは中止し、経験豊富なパートナーにて事業を実施した。	適応指導教室や特別支援学校等、15校・施設の292名の児童生徒等に芸術体験の機会を提供した。(R5年2月末時点)また、新規の「美ココロ・パートナー」を1人受け入れ、育成している。	様々な事情により、通常学級が行う文化芸術体験プログラムに参加しにくい状況にある子どもたちに、文化芸術に触れる機会を提供する。また、若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する。	文化芸術振興課	木村/3344	
8	美術館地域連携プログラム	継続	美術館内のほか、学校や地域等において、子どもたちにアートやものづくりの楽しさを体験する機会を提供する「たいけんびじゅつかん」「学校出前授業プログラム」「地域出前」等を行う。	2,296	◎		・学校出前授業 71回、参加者数3,627名 ・地域出前 32回、参加者数3,544名 ・アウトリーチ事業 2回、参加者数520名	・たいけんびじゅつかん 7回、参加者数176名 ・学校出前授業 32回、参加者数1,601名 ・地域出前 13回、参加者数620名 ・アウトリーチ事業等 12回、参加者数1,009名	(11月末日までの実績) ・たいけんびじゅつかん 6回、参加者数113名 ・学校出前授業 34回、参加者数1,407名 ・地域出前 12回、参加者数510名 ・アウトリーチ事業 6回、参加者数553名	美術館内のほか、学校や地域等において、子どもたちにアートやものづくりの楽しさを体験する機会を提供する。「たいけんびじゅつかん」「学校出前授業プログラム」「地域出前」等を行う。	文化芸術振興課	近藤/543-2111	
9	障害者アート公募展開催推進事業	継続	障害者の社会参加の促進、造形活動の裾野拡大、障害者理解の促進を図るため、在宅の知的障害者や精神障害者など、従来作品出展の機会が少なかった県内の造形作品を広く公募し、展覧会(びかっtoアート展)を開催する。	4,600	◎		・湖北巡回展 展示15点 来場者292人 ・びかっtoアート展 応募268点 展示90点 来場者1,292人	・湖北巡回展 新型コロナウイルスのため中止 ・びかっtoアート展 応募319点 展示94点 来場者1,943人	・湖北巡回展 展示16点 来場者203名 ・びかっtoアート展 応募291点 展示98点 来場者1,623人	・湖北地域での展覧会(長浜市・黒壁) ・湖南地域での展覧会(イオンモール草津) 応募数目標 300点	障害福祉課	奥田/3542	
10	障害者地域生活移行促進事業費補助金	継続	障害者の地域生活を支える各種機能の連携と、それぞれの機能の一層の充実・強化を図ることにより、障害者の地域生活への移行を促進する事業への補助金であり、芸術分野において県内の表現活動ワークショップに参加する障害のある人やその支援者等が出演する音楽祭の開催や、障害者芸術作品の啓発に関するイベントの開催等を行う。	90,837	◎	○	・地域ケアサービス推進事業 ・糸賀一雄研究・普及啓発活動 ・文化芸術を通じた障害者エンパワメント事業 ・糸賀一雄記念賞音楽祭(参加者90名程度、観客70名程度) ※感染症拡大防止のため、観客を参加者や関係者に限定 ・地域交流事業 等	・地域ケアサービス推進事業 鑑賞方法を考える検討会議、芸術鑑賞会、盲ろう者との音楽ワークショップ ・糸賀一雄研究・普及啓発活動 「SHIGA-FUKU」トークイベントの開催 ・文化芸術を通じた障害者エンパワメント事業 NOMA懇談会の開催、展覧会の開催 ・糸賀一雄記念賞音楽祭 コロナの為、無観客、オンラインライブ配信のみでの公演。 ・地域交流事業 NOMA企画展と連動したイベントの開催4回 等	・地域ケアサービス推進事業 芸術鑑賞会、バリアフリー映画上映会等の開催 ・糸賀一雄研究・普及啓発活動 「SHIGA-FUKU」トークイベントの開催 ・文化芸術を通じた障害者エンパワメント事業 NOMA懇談会の開催(年2回)、展覧会の開催 ・糸賀一雄記念賞音楽祭 12月4日、彦根文化プラザにて開催(参加者95名、鑑賞者数916名(会場鑑賞361名・オンライン鑑賞555名)) ・地域交流事業 NOMA企画展と連動したイベントの開催、教育分野と連携したアウトリーチプログラムの実施 等	・地域ケアサービス推進事業 ・糸賀一雄研究・普及啓発活動 糸賀思想の普及・啓発に関する取組を実施し、障害福祉の向上を図るための事業 ・文化芸術を通じた障害者エンパワメント事業 アール・ブリュット作品の展示を通じて、障害者の造形作品の社会的認知度並びに評価を高め、障害者本人のエンパワメントを図る事業 ・糸賀音楽祭事業 表現活動を通じて障害者の魅力を県民に周知することで地域住民の障害者理解の促進につなげる ・地域交流事業 地域の住民、社会教育施設等を対象としたイベントやワークショップを実施 等	障害福祉課	奥田/3542	



No	R4年度事業名	区分 新規 継続 廃止	R4年度事業の概要 ※できる限り簡潔に記入	R4年度 当初 予算額 (千円)	関連する 基本的な方向性 (柱) ◎：1つ必須 ○：任意で2つまで			R2年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R3年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R4年度取組状況 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R5年度取組予定 ※目標となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	担当 所属	担当 者/ 電話 番号 ※本庁 は内線
					親しむ	つなぐ・ 支える	活かす						
11	障害者造形活動 推進事業費補助 金	継続	障害のある人の造形作品の紹介にとどまらず、一般アーティストの作品とともに並列して見せる企画展の開催など、ボードレス・アートミュージアムNO-MAが行う活動に対し、補助を行う。	18,000	◎			・「Co-LAB#1, 2, 3」開催 観覧者数 728人 ・「文字模似言葉（もじもじこのは）」開催 観覧者数 506人	・「文字模似言葉（もじもじこのは）」 観覧者数 574人 ・「ボードレスの証明はたよしこという衝撃」 観覧者数 832人 ・「79億人の他人ーこの星に住む、すべての「わたし」へ」 観覧者数 1,512人 ・「アール・ブリュットー日本人と自然ーBEYOND」 観覧者数1,017人	・「反復と平和 日々、わたしを繰り返す」 ・「絵になる風景」 ・「林田嶺一のポップ・ワールド」	・県内外における作品調査・支援事業 県内外におけるアール・ブリュット作品の調査・発掘や収集・保存と、その枠組みづくりの支援を行い、報告書を作成する事業。 ・ボードレス・アートミュージアムNO-MAでの展覧会の開催事業 ボードレス・アートミュージアムNO-MAにおいて、これまでの作品調査に基づいたアール・ブリュット作家等の企画展等を開催する事業。 ・アール・ブリュットに関する情報発信事業 ボードレス・アートミュージアムNO-MAを中心に展開されるアール・ブリュットに関する情報をホームページやソーシャルネットワークサービス等を活用し、国内外に情報発信する事業。 ・作品保管場所の確保	障害福祉課	奥田/ 3542
12	インクルーシブ・プログラム 推進モデル事業	廃止	特別支援学校と小・中・高等学校が連携しながら、スポーツ活動や文化・芸術活動に取り組むインクルーシブ・プログラムにより、交流および共同学習を推進する。	R2年度は不執行（国委託事業の廃止）、R3年度以降は取組なし								特別支援教育課	
13	大阪・関西万博 出展基本計画策 定事業	新規	2025年開催の大阪・関西万博に関西パビリオンの一部として滋賀県ブース（仮称）を出展するに当たり、基本計画を策定する。	10,074	◎		—	—	インクルーシブ教育に関する専門家等で構成する有識者懇話会で意見を聴取しながら計画策定を進めた。	展示設計に当たり、基本計画をもとに、障害の有無等に関わらず誰もが楽しめる展示を検討していく。	企画調整課	若城/ 3315	
14	学校団体鑑賞の 受け入れ	新規	美術館において、学校団体鑑賞を受け入れ、ワークショップ等を実施する。	—	◎		休館中	小学校7校、中学校1校、高等学校2校、特別支援学校1校 延べ437名が来館	小学校6校、中学校27校、高等学校1校、特別支援学校6校が来館（R5年2月時点）	年間を通じて学校団体鑑賞の受け入れを実施する予定	県立美術館	近藤/ 077- 543- 2111	
15	滋賀の福祉の現場から 生まれた造形の魅力発信 事業	継続	事業名を「滋賀の福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業」に変更した。県内外の多くの方に福祉の現場で生まれた造形の魅力に出会っていただけるよう、県内各地の宿泊施設や集客施設で作品展示と福祉施設の紹介、リーフレット配架を行う。	4,032	○	◎	ショッピングモールや旅館、郵便局など県内11か所で作品展示を実施した。	・作品展示箇所 4か所 ・映像展示箇所 2か所	・作品展示箇所 5か所 ・リーフレット配架箇所 21か所	・作品展示箇所 5か所 ・リーフレット配架箇所 21か所	文化芸術振興課	山 奥・ 小林/ 077- 543- 2111	

No	R4年度事業名	区分 新規 継続 廃止	R4年度事業の概要 ※できる限り簡潔に記入	R4年度 当初 予算額 (千円)	関連する 基本的な方向性 (柱) ◎：1つ必須 ○：任意で2つまで			R2年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R3年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R4年度取組状況 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R5年度取組予定 ※目標となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	担当 所属	担当 者/ 電話 番号 ※本庁 は内線
					親しむ	つなぐ・ 支える	活かす						
16	障害者の表現活動の地域拠点づくりモデル事業費補助金	廃止	障害のある人の表現活動が、地域主体の自立的な活動として展開されるよう、地域での活動の基盤を形成するため、それを支える人材の育成や支援ノウハウの共有を行う事業に対し、補助を行う。	—	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の表現活動を推進する人材育成プログラム 音楽・ダンス、地域の民族芸能体験ワークショップ、現代音楽ワークショップ、意見交換会</li> <li>・支援ノウハウの共有 —糸賀一雄記念賞音楽祭における成果発表等</li> <li>・活動記録の情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽・ダンス表現作品の創作を通じた人材育成プログラム 5回開催 参加者計110名</li> <li>・地域の民族芸能ワークショップを通じた人材育成プログラム 「とんてんかん×どんどこどん vol.2」 参加者計29名</li> <li>・既存のワークショップや活動団体のコラボレーション企画の開催を通じた人材育成プログラム 5回開催 106名</li> <li>・盲ろうの人を対象としたワークショップ開催を通じた人材育成プログラム 音楽ワークショップ1回開催 参加者計25名</li> <li>・障害者の表現活動を推進する支援ノウハウの共有</li> <li>・糸賀一雄記念賞音楽祭における成果発表等企画開催を通じた情報発信</li> </ul>	—	—	障害福祉課	奥田/ 3542	
17	障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金	継続	障害者の造形活動にかかる権利保護に関する相談対応、関係者のネットワークづくり、情報提供等を行う支援センターの活動に対し、補助する。	9,000		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援 54件</li> <li>・人材育成</li> <li>・ネットワークづくり</li> <li>・発表等の機会の創出 施設・学校合同企画展来場者698名 おっともだちひろっぱの開催</li> <li>・情報収集・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援 43件</li> <li>・人材育成 研修計7回</li> <li>・ネットワークづくり 協力委員2回開催</li> <li>・発表等の機会の創出 施設・学校合同企画展来場者662名 オンライン発表会の開催</li> <li>・糸賀一雄記念賞音楽祭での鑑賞支援 情報収集・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援</li> <li>・人材育成、研修</li> <li>・関係者のネットワークづくり</li> <li>・発表等の機会の創出 施設・学校合同企画展開催 オンライン発表会の開催</li> <li>・芸術文化活動ワークショップの実施 糸賀一雄記念賞音楽祭での鑑賞支援</li> <li>・芸術文化支援センター・サテライト(仮称)新設の検討</li> <li>・情報収集・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内における相談支援事業</li> <li>・芸術文化活動を支援する人材育成等 芸術文化活動の支援方法、著作権等の権利保護、障害特性への理解等に関する研修等</li> <li>・関係者のネットワークづくり 分野や領域を超えたさまざまな関係者とのネットワークの構築</li> <li>・発表の機会の確保 ネットワークを活用した地域の障害者の表現活動の発表の機会の確保</li> <li>・障害のある人の舞台芸術鑑賞支援</li> <li>・情報収集・発信</li> <li>・事業評価および成果報告のとりまとめ 芸術文化活動に対する支援の現状把握と事業評価の実施・報告書の作成</li> </ul>	障害福祉課	奥田/ 3542	
18	文化芸術と福祉をつなぐ研修会	廃止	文化芸術関係者と福祉の現場で芸術活動を実践する関係者、行政等が一堂に会し、座学やワークショップを通して連携や協働のあり方を考える研修会を開催する。	—		◎	—	福祉と芸術をつなぐラウンドミーティングin滋賀の開催 (参加者のべ58名)	—	—	文化芸術振興課	梅村/ 3345	
19	障害のある人の文化芸術を支える「拠点」のあり方検討懇話会の開催	廃止	障害のある人の文化芸術活動を支援するための機能や拠点のあり方について検討する懇話会を設置する。	—		◎	○	障害者の文化芸術活動を支える拠点のあり方等に関する検討懇話会の開催 (4回開催)	—	—	文化芸術振興課	梅村/ 3345	

No	R4年度事業名	区分 新規 継続 廃止	R4年度事業の概要 ※できる限り簡潔に記入	R4年度 当初 予算額 (千円)	関連する 基本的な方向性 (柱) ◎：1つ必須 ○：任意で2つまで			R2年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R3年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R4年度取組状況 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R5年度取組予定 ※目標となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	担当 所属	担当 者/ 電話 番号 ※本庁 は内線
					親しむ	つなぐ・ 支える	活かす						
20	障害者等の文化芸術活動を支援する拠点づくり事業	継続	共生社会の実現に向け、障害の有無にかかわらず誰もがともに文化芸術活動を楽しみ、相互理解を深める場を創出するとともに、障害者等の文化芸術活動を支援する人材育成等を図る。	8,740		◎		誰もが参加し楽しめる文化芸術プログラム(3地域)、文化芸術や他分野で活躍する人同士の関係構築を図るイベントを実施した。(トークイベント8回、参加者124名)	誰もが参加し楽しめる文化芸術プログラム(2地域)、文化芸術や他分野で活躍する人同士の関係構築を図るイベントを実施予定。(トークイベント6回)	誰もが参加し楽しめる文化芸術プログラムを開催する(3地域)ほか、県内文化芸術活動者の人材育成などを行う。	文化芸術振興課	梅村/3345	
21	連携ネットワーク組織事業	継続	11月1日から「アール・ブリュットネットワーク」を「アートと障害を考えるネットワーク」に組織移行した。障害のある人による美術表現を軸に、共生社会の実現にも資する情報を提供する目的で、フォーラム開催やメールマガジンの発行を行う。	1,265		◎	・メールマガジンの発行回数 22回 ・ネットワーク会員数 計 1,396 団体会員 199 (うち滋賀県38) 個人会員 594 (うち滋賀県144) 情報会員 603 ・オンラインフォーラムの開催	・メールマガジンの発行回数 12回 ・ネットワーク会員数 計 1,416 団体会員 200 個人会員 606 情報会員 610 ・オンラインフォーラムの開催	・メールマガジンの発行回数 17回 ・ネットワーク会員数 計 1,428 ・フォーラムの開催 (R5年2月現在)	・メールマガジンの発行 ・フォーラムの開催	文化芸術振興課	山本・小林/077-543-2111	
22	文化振興推進事業	新規	R2年度に国が行う障害者による文化芸術活動の実態調査の内容や結果を参考に、実態調査を行い、次期計画改定に反映させる予定。	—		◎	—	—	障害者施設や文化施設、市町の障害者文化芸術行政主管課を対象に、実態調査を行い、障害者の文化芸術活動の推進に向けた施策の検討を行った。	—	文化芸術振興課	梅村/3345	
23	わたSHIGA輝く国スポ・障スポ教室	新規	両大会イメージソング制作者、歌唱者であるyokko氏による講話、イメージソングの歌唱、手話歌体験を行い、障害者理解を深めるとともに、両大会への興味関心の向上を図り、児童・生徒が運動やスポーツの多様な関わり方等について考える機会とする。	970		◎	—	—	令和4年10月～令和5年2月の期間に県内小中学校を対象に11校実施した。	令和5年10月～令和6年2月の期間に県内小中学校を対象に実施予定。実施校については、未定。	国スポ・障スポ大会局	辻/3338	
24	読書バリアフリー推進事業	新規	滋賀県読書バリアフリー計画に基づき、視覚障害者等の読書環境の整備を推進する。	2,630		◎	—	—	・読書バリアフリーコーディネーターの設置 ・読書バリアフリー研修会実施(参加者101名) ・読書バリアフリーフォーラム(R5年2月9日開催) ・読書バリアフリー啓発リーフレットの作成(対象別に2種類)	・読書バリアフリーコーディネーターの設置 ・アウトリーチ型の普及啓発	生涯学習課	國友/4651	
25	読書バリアフリーのための資料整備事業	新規	読書バリアフリー法や滋賀県読書バリアフリー計画に基づき、大活字本や朗読CD等を整備し、一般的な活字の図書を読むことが困難な利用者の読書環境を整える。	637		◎	—	【整備実績】 ・大活字本 113冊 ・朗読CD 112点 ・LLブック 21冊	【整備実績】 ・大活字本 71冊 ・朗読CD 53点 ・LLブック 3冊	【整備予定】 ・大活字本 60冊 ・朗読CD 75点 ・児童用大活字本 100点 ・布絵本 15点	生涯学習課(図書館)	林/077-548-9691	
26	展覧会開催事業費	継続	来館者に優れた美術作品の鑑賞の機会を提供するため、企画展および常設展を開催する。	96,496		◎	令和3年6月の再開館に向けて、展覧会の開催準備を行った。	令和3年6月に再開館し、3本の企画展と2本の常設展を行った。(来館者数 52,080名)	年間を通じた常設展の開催と、4本の企画展の開催を行う。	年間を通じた常設展の開催と、3本の企画展の開催を行う予定。	県立美術館	近藤/077-543-2111	



No	R4年度事業名	区分 新規 継続 廃止	R4年度事業の概要 ※できる限り簡潔に記入	R4年度 当初 予算額 (千円)	関連する 基本的な方向性 (柱) ◎：1つ必須 ○：任意で2つまで			R2年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R3年度取組結果 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R4年度取組状況 ※実績となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	R5年度取組予定 ※目標となる数値がある場合は あわせて記入 (件数、参加者数など)	担当 所属	担当 者/ 電話 番号 ※本庁 は内線
					親しむ	つなぐ・ 支える	活かす						
27	びわ湖ホール管理運営費	継続	優れた舞台芸術の創造・発信と、鑑賞機会の提供の拠点となるびわ湖ホールにおける事業の実施および施設の管理運営等の業務を指定管理者が行う。	898,879			◎	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月以降、多くの公演が中止または延期となったが、7月からは感染症対策を徹底して事業を再開し、音楽、歌劇、演劇、舞踊、伝統芸能等の舞台芸術公演を行うとともに、リハーサル見学会や学校との連携事業などの舞台芸術の普及事業を実施。(自主事業 61事業、167公演)	自主事業の制作をはじめ、歌劇、音楽、演劇、舞踊等の多彩なジャンルにわたって、質が高く特色ある事業を厳選して実施するほか、アウトリーチ等により舞台芸術を広く県民に普及する活動に取り組んでいる。	自主事業の制作をはじめ、歌劇、音楽、演劇、舞踊等の多彩なジャンルにわたって、質が高く特色ある事業を厳選して実施するほか、アウトリーチ等により舞台芸術を広く県民に普及する活動に取り組む。	文化芸術振興課	村田/3340	
28	アール・ブリュット担当学芸員の配置	継続	県立美術館にアール・ブリュット担当学芸員を配置し、調査・研究や展覧会の企画などを行う。	—			◎	アール・ブリュット担当学芸員(2名)を配置し、調査・研究や展覧会の企画を実施している。	アール・ブリュット担当学芸員(2名)を配置し、調査・研究や展覧会の企画を実施している。	アール・ブリュット担当学芸員(2名)を配置し、調査・研究や展覧会の企画を実施している。	アール・ブリュット担当学芸員(2名)を配置し、調査・研究や展覧会の企画を予定している。	県立美術館	近藤/077-543-2111
29	美術品保全収集管理事業	継続	来館者に優れた美術作品の鑑賞の機会を提供するため、収蔵品の充実を図ることを目的に、収集方針に基づき重要な美術作品の収集を行う。	3,800			◎	作品収集方針に基づき、購入や寄贈により作品の収集を行った。(収集件数22件)	作品収集方針に基づき、購入や寄贈により作品の収集を行った。(収集件数26件)	作品収集方針に基づき、購入や寄贈により作品の収集を行う。R4年度は岡崎莉望氏の作品2点および喜舎場盛也氏の作品10点のアール・ブリュット作品を購入する。	作品収集方針に基づき、購入や寄贈により作品の収集を行う予定である。	県立美術館	近藤/077-543-2111
30	アール・ブリュットおよび信楽焼展示コーナー運営事業	新規	滋賀の美の中でも特徴的な文化資源であるアール・ブリュットと信楽焼に焦点をあて、滋賀県立美術館において、いつでもその魅力に出会うことができる常設コーナーの設置・運営を行う。	3,900	○		◎	—	—	信楽青年寮の酒井清さんと、信楽焼窯元の谷宮さんの作品および制作現場にスポットをあて、紹介する展示を行った。また、これまでの滋賀の障害者福祉施設での取組や創作活動について紹介する展示を行った。	一貫したテーマに沿って展示替えを行いながら、引き続きアール・ブリュットおよび信楽焼の魅力伝える展示コーナーの運営を行う。	文化芸術振興課	山奥/543-2111